

重点プロジェクト = 総合戦略事業

第2期地方版総合戦略の位置づけ

国の「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」における「人口減少の緩和」「地域内経済循環の実現」「人口減少に適応した地域づくり」という地方創生の視点は、大磯町第五次総合計画前期基本計画でめざす方向性と合致することから、前期基本計画は「第2期地方版総合戦略」を兼ねるものとし、課題解決に向けて重点的に推進する取組みを示す**重点プロジェクトを「総合戦略事業」として位置づけます。**

〈重点プロジェクト1:働く人を応援するプロジェクト〉

<p>○課題</p> <p>自然や歴史・文化的な魅力を有する良好な住宅地として発展してきた大磯町であるが、近年は人口減少・少子・超高齢社会の到来により、地域産業の担い手不足、生産性の向上といった課題に直面している。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、働き方や生活様式の変化により、従来の住宅地としてだけでなく、良好な環境の中で、住みながら働くことができる町としての魅力が着目されつつある。</p>	<p>○基本的な考え方～官民が連携して、働く世代を町に呼び込み、地域経済の活性化を推進する～</p> <p>町の魅力を高め、開かれたまちとして持続していくために、働く人が元気になるまちをめざします。 町内外での交流による地域産業の担い手づくりや魅力的な拠点の形成・活用などを通じて、経営基盤の安定化を図るとともに地域経済の循環を育んでいきます。 こうした取組みを町民・事業者と連携・協働しながら進めることで、町民の誇り・憧れ・活気を育み、大磯らしい多様なライフスタイルを創出します。</p>	<p>○期待される効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 多様な産業・働き方の提案 ⇒ 多様なライフスタイルの実現 ■ 地域経済の循環促進 ⇒ 地産地消の促進・交流機会の創出 ■ 大磯町の魅力向上 ⇒ 移住促進・関係人口の増加
--	---	--



補足) 現状…原則令和元年度末数値、補助的評価指標…第五次総合計画前期基本計画部門別計画(P28～P89)の施策指標から引用

P(PLAN)		D(DO)							C(CHECK)						
重点事業	実施項目	主な取組み	評価指標	単位	現状	指標の推移					町評価				
						R3	R4	R5	R6	R7	目標	評価	評価理由	今後の方針	
① 地域産業基盤支援事業 ・地域産業の担い手を関係者と連携しながら多角的に支援します。	◆多様な担い手の確保や育成への支援	自伐型林業の森林環境保全研修、森林所有者と利用希望者のマッチングに向けた意向調査の準備	KPI	町内事業者数	件	1,259	1,249	1,351				1,259	A	数値目標は達成しており、該当事業についても順調に進められている。	制度の周知を行うとともに、商工会や金融機関等との連携の推進に努める。
	◆生産力の維持・向上への支援	川場村との協定、めいどいんおおいそ、ふるさと納税返礼品の新規登録	※補助的評価指標												
	◆経営環境の改善や経営基盤強化への支援	中小企業金融対策融資・資金利子補給、勤労者住宅資金利子補給、勤労者生活資金利子補給、小規模事業者等エール支援金	※補助的評価指標												
	※補助的評価指標			※補助的評価指標											
② 地域経済循環形成事業 ・町内の観光施設等を活用することにより地域経済の流れ・循環を形成します。	◆みなとオアシスエリアの充実	みなとオアシスエリア周遊スタンプラリーの実施、みなとオアシス大磯エリア周遊マップの作成	KPI	繁閑差率(※3)	%	36	53	57				50以上	A	数値目標を達成しており、各種イベントやみなとオアシスエリアへの来訪者が増加している。	通年での誘客に向けて、町内の各施設等と連携することで地域経済の循環の形成を目指す。
	◆大磯らしい潤いづくり(※1)の促進	大磯まつりの実施、大磯らしい潤いづくり協議会事業等への支援	※補助的評価指標												
	◆スマート産業(※2)への転換の促進		※補助的評価指標												
	※補助的評価指標			※補助的評価指標											
③ 働く世代の移住促進事業 ・住みながら働きたいと思う人々を大磯に惹きつけ、移住者の増加をめざします。	◆移住支援総合窓口の開設	移住相談総合窓口による移住相談	KPI	移住支援総合窓口の相談件数	件	0	9	29				10以上	A	前年度の移住支援総合窓口を開設したことで、数値が目標を上回った。	町内移住支援団体などと連携し、大磯町に興味を持っていただけるように取組みを進めることを検討する。
	◆お試し居住の実施	町内移住支援団体との連携	※補助的評価指標												
	◆多様な働き方の支援	空き家バンク登録、県主催セミナーへの参加、移住イベント(ふるさと回帰フェア)への参加	※補助的評価指標												
	※補助的評価指標			※補助的評価指標											

C(CHECK)		A(ACTION)	
総合計画審議会評価	意見等	町評価	今後の方向性
I II III IV V	<p>①地域産業基盤支援事業に関して、KPI「町内事業者数」の現状値と目標値が同じであり、PDCAサイクルに基づいて、施策を進めていくのであれば、現状維持という目標設定に違和感がある。</p> <p>②地域経済循環形成事業に関して、昨年度と同様にKPI「繁閑差率」は良好であり、施策を進められている。</p> <p>③働く世代の移住促進事業に関して、移住相談やお試し居住施設の運営のような取組みだけでは、人口減少の直接的な対策にはならない。空き家の利活用のような移住希望者のニーズに合わせて取り組む必要がある。</p>	<p>◆重点事業①について、林業については、森林所有者の意向調査を進めていく。農業については、地域の話し合いに基づいて将来の農地利用を明確化する「地域計画」を策定し、新規就農者等による農地活用を活性化させる。また、令和5年度に定置網漁業を開始したこと、令和6年度には「旧吉田茂郎」でのカフェ営業やオリジナルグッズの製作に取り組んでいくことから、漁業・商業の活性化も進めていく。</p> <p>◆重点事業②について、令和5年度に引き続き、「ウィークリー打上げ花火」等の大磯港のイベントを進めていながら、さらなる充実を図る。また、ふるさと納税返礼品に新たな商品・製品の登録を進めることで、販売促進や財源確保に取り組んでいく。</p> <p>◆重点事業③について、引き続き、移住支援総合窓口による移住相談、移住イベントへ参加していきながら、本町の魅力発信に努める。また、空き家の利活用について、関係各課と調整していきながら、移住希望者のニーズに併せて取組みを検討していく。</p>	今後の方向性

(※1)大磯らしい潤いづくり…観光及び産業を通じた情報発信、通年での誘客や町内事業者への多角的な支援などを促進し、効果的かつ総合的に来訪地としての魅力を高めていくとともに、地域に賑わいを生み出すことを目的とする取組み。

(※2)スマート産業…人手不足や生産力向上等の課題解決を実現するため、ロボット技術やICTを活用する取組み。

(※3)繁閑差率…観光客数の繁忙期(5月～10月)と閑散期(11月～4月)の差を率で示したもの。

＜重点プロジェクト2:妊娠・出産・子育て・教育の希望をかなえるプロジェクト＞

<p>○課題</p> <p>少子・超高齢社会が到来する中、次世代へ引き継いでいく社会を形成するためにも子育ての環境を充実させることが求められている。行政サービスの充実、地域ぐるみでの子育て支援の拡充、大磯町の自然や歴史・文化を生かした魅力的な教育の推進し、次世代へと継承していくことが重要である。</p>	<p>○基本的な考え方～地域が一体となり子どもや子育て世代を支え、次世代へとつないでいく～</p> <p>少子・超高齢社会が到来する中、次世代へ引き継いでいく社会を形成するためにも子育て・子育ての環境を充実させることが求められています。行政サービスの充実とともに、地域ぐるみでの子育て・子育て支援の拡充を図ることで、子育てしやすいまちとして大磯町の存在感を高めていきます。また、大磯町が有する自然や歴史・文化を生かした魅力的な教育を推進し、次世代へと継承していきます。</p>	<p>○期待される効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 子育て支援の充実による仕事と子育ての両立 ⇒ 子育て世代の社会参加の促進 ■ 子育て環境の向上による定住促進・移住希望者の増加 ⇒ 定住人口の安定化 ■ 教育の質の向上と地域学習の推進 ⇒ 地域人材の育成・発掘
--	--	--



補足) 現状…原則令和元年度末数値、補助的評価指標…第五次総合計画前期基本計画部門別計画(P28～P89)の施策指標から引用

P(PLAN)		D(DO)							C(CHECK)							
重点事業	実施項目	主な取組み	評価指標	単位	現状	指標の推移					町評価					
						R3	R4	R5	R6	R7	目標	評価	評価理由	今後の方針		
① 子育て総合支援事業・妊娠・出産・子育ての各ステージの応じた支援を行います。	◆待機児童対策の推進	大磯幼稚園の認定こども園化	KPI 待機児童数	人	15	8	9				0	C	各園の協力の下、保育定員の弾力化による受入れを実施しているものの、待機児童数が増加したため。	待機児童の解消に向け、大磯幼稚園の認定こども園移行事業に取り組んでいく。		
	◆切れ目ない支援体制の構築	一時保育・休日保育、放課後子ども教室、朝の子どもの居場所づくり事業	補助的評価指標	《上記のKPIの補助的な指標として参考としてください。》												
			保育の資質向上支援研修実施回数	回	3	3	3				3以上					
			放課後子ども教室の参加者数	人	5,746	1,196	2,516				6,000以上					
			—	—	—	—	—	—	—	—	—					
② 地域とともに見守り育む子育て事業・地域全体で子育てを支える環境を構築します。	◆子育て支援センター機能の充実	つどいの広場、子ども発達相談員	KPI 「つどいの広場(※4)」利用者数	人	13,807	7,610	10,608				15,000以上	A	コロナ禍で組数・人数に制限を設けた中での実施であったが、前年度よりも利用者が増えている。	利用時間を延長するとともに、子育て支援センター(すくすく)での講座開始やツイッタの活用により、子育て世代への情報発信を強化していく。		
	◆子育て世代と支援者のマッチングの促進	ファミリー・サポート・センター事業	補助的評価指標	《上記のKPIの補助的な指標として参考としてください。》												
	◆自主的な活動の支援		子ども発達相談員による相談数	人	321	544	539				370以上					
			青少年関連行事開催数	回	5	3	6				8					
			ファミリー教室受講者満足度	%	85	63	95				90					
③ 次代を育む「大磯教育」事業・幼保小中連携、地域連携など大磯町の特性を生かした教育を推進します。	◆学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の設置	学校運営協議会の開催及び運営についての調整等	KPI 学校運営協議会における実施事業数	事業	0(未設置)	0(未設置)	6				10以上	B	生沢分校への学校運営協議会の設置について検討を進めたが、県と町との見解の相違を埋めることができなかった。	国府小学校、国府中学校の各学校運営協議会の中に生沢分校を含めた形で運営していく。		
	◆教育ICT環境の充実	児童生徒一人一台端末の利用促進に向けた研修の実施等	補助的評価指標	《上記のKPIの補助的な指標として参考としてください。》												
	◆グローバルな大磯カリキュラム(※5)の実施	教職員研修交流事業、青少年指導員研修等の実施	青少年指導者研修参加延べ人数	人	6	10	6				12					
			「授業が分かる」と回答した生徒の割合	%	60.3	79.9	81.9				80以上					
			—	—	—	—	—	—	—	—	—					
		C(CHECK)		A(ACTION)												
		総合計画審議会評価		町評価												
評価	意見等		今後の方向性													
I II III IV V	<p>①子育て総合支援事業に関して、KPI「待機児童数」が増え続けていることから、早急な対応が必要であり、大磯幼稚園の認定こども園化を先行して進めるべきである。</p> <p>②地域とともに見守り育む子育て事業に関して、「主な取組み」に記載がなければ、審議会評価ができない。</p> <p>③次代を育む「大磯教育」事業に関して、学校教育の取組みだけでなく、子どもの発達における地域の役割に関する取組みも記載するべきである。</p>		<p>◆重点事業①について、認定こども園の早期開園に向けた整備を進めるとともに、早朝の預かり保育や預かり時間の延長を実施することで、認定こども園開園までの待機児童対策を行う。</p> <p>◆重点事業②について、子育て支援センターと母子の保健相談窓口である「いそさほ赤ちゃん相談室」を統合し、子育て家庭への一体的かつ包括的な支援を行う。</p> <p>◆重点事業③について、タブレット端末を活用し、子ども達が悩みを訴えることができるアプリの導入等、教育現場のICT環境を充実させる。また、幼保小中が連携した一貫教育的カリキュラムの作成に向けた研究を進めていく。</p>													

(※4)つどいの広場…乳幼児とその保護者が安心して自由に遊ぶことができる場所であり、子育てコンシェルジュ・子育てアドバイザーによる、子育ての不安や悩みに対する相談を行っている。

(※5)グローバルな大磯カリキュラム…グローバルとは地球規模を意味するグローバル(global)と地域を意味するローカル(local)を組み合わせた造語で、国際社会で求められる能力等を育む外国語教室、歴史資源を生かした郷土学習、恵まれた自然環境を生かした環境学習など、本町の特色や地域資源を生かした学習をめざす取組み。

重点プロジェクト3:住む人の安心な暮らしを守るプロジェクト

<p>○課題</p> <p>住み慣れた地域での自立した暮らしを継続していくためには誰もが安心して暮らし続けられる地域を築くことが求められている。災害などの非常時にも柔軟に対応できるように地域防災力を高め、安全で安心して過ごすことができる地域づくりが必要である。</p>	<p>○基本的な考え方～あらゆる生活の基盤を支え、安全で安心を実感できる暮らしを実現する～</p> <p>自然に囲まれた環境の中で、安心を実感できる暮らしを実現することが、大磯町の豊かさの原点です。 平時においては、暮らしを支える健康づくりを推進し、安心や交流の基礎となる移動環境の改善により、仕事や余暇などそれぞれのくらしの場面を支えます。 災害などの非常時にも柔軟に対応できるように地域防災力を高め、平時から非常時まで安全で安心して過ごすことのできる地域づくりを進めます。</p>	<p>○期待される効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 災害に強い地域の形成 ⇒ 回復力の強いまちづくり ■ 健康寿命の延伸 ⇒ 高齢者の社会参加の促進 ■ 地域での出会い・つながりの形成 ⇒ 地域での支え合いの強化
--	--	--

補足) 現状…原則令和元年度末数値、補助的評価指標…第五次総合計画前期基本計画部門別計画(P28～P89)の施策指標から引用

P(PLAN)			D(DO)							C(CHECK)					
重点事業	実施項目	主な取組み	評価指標	単位	現状	指標の推移					目標	町評価			
						R3	R4	R5	R6	R7		評価	評価理由	今後の方針	
① 地域防災力向上事業 ・あらゆる災害に対し、自助、共助、公助により的確に対応できる体制づくりを進めます。	◆防災・行政ナビ(※6)の普及・機能拡充	備蓄品・資機材等の購入、防災・行政ナビの機能拡充(写真投稿機能)	KPI 防災・行政ナビ登録者数	件	0 (導入前)	4,953	6,176					5,000以上	B	数値目標は達成しているが、補助的評価指標における数値目標は達成できていない。	現状よりも幅広い対象者に周知を行い、地域防災力向上のための体制づくりを進めていく。
	◆総合防災訓練等の継続実施	安否確認訓練、参加型訓練、津波土砂避難訓練の実施	※上記のKPIの補助的な指標として参考としてください。※												
	◆業務継続性の強化	本庁舎使用不能時における代替庁舎使用に係る協定の締結	災害協定数	件	51	72	79					60以上			
	◆感染症対策の充実	感染症対策マニュアル作成、備品購入	防災リーダー資格者数	人	30	33	36					48以上			
② 健康長寿推進事業 ・未病対策なども含めて健康寿命の延伸を促進します。	◆地域での健康づくりの促進	次期健康けんこうプラン大磯の策定、ますます元気いっぱい教室、ポール・ウォーキング教室、介護予防講師派遣	KPI 平均自立期間(※9)	歳	男性 81.51 女性 84.73	男性 81.51 女性 84.73	男性 81.0 女性 84.5					延伸	B	数値目標に対して指標はほぼ横ばいである。事業の中止もある一方、スポーツ施設利用件数は順調に増加傾向を見せている。	利用者が増加するよう広報等により周知を図り、地域の健康づくりを進めていく。
	◆地域とのつながりの構築	つながり事業	※上記のKPIの補助的な指標として参考としてください。※												
			おあしす24から地域主体の通いへ転換数	件	0	0	0					3			
				スポーツ施設利用件数	件	3,191	2,587	3,204							
③ 地域モビリティ(※7)推進事業 ・誰もが安心して行き交うことができる環境を整えます。	◆公共交通の維持、新たな公共交通の導入	補助路線バスの継続。地域公共交通計画策定に係るアンケート調査の実施。	KPI 新たな公共交通サービスの導入数	件	1	1	1					2	B	目標の数値に対する増加はないが、新たな公共交通サービスの導入に向けて検討を進めている。	町内全域に実施したアンケート調査結果に基づき、地域公共交通計画の策定する。
	◆移動困難者、移動制約者への支援	予約型乗合タクシーの運行。地域公共交通計画策定に係るアンケート調査の実施。	※上記のKPIの補助的な指標として参考としてください。※												
	◆交通結節点(※8)の安全性向上	大磯駅前広場の景観・利便性の向上に関するアンケート調査の実施。	定期点検(2巡目)実施済み橋りょう数(全69橋)	橋	0	57	68					69			
			橋りょう長寿命化実施済み橋りょう数(全69橋)	橋	4	10	20					31			
			主要幹線道路構想	路線	0	0	0					1			
C(CHECK)			A(ACTION)												
総合計画審議会評価			町評価												
評価	意見等		今後の方向性												
I II III IV V	①地域防災力向上事業に関して、KPI「防災・行政ナビ登録者数」は「防災訓練参加率」というような指標の方が施策の推移が見えやすい。また、各取組みについては、非常に熱心に取り組んでいる印象がある。 ②健康寿命推進事業に関して、KPI「平均自立期間」では、微々たる数値の変化では指標の推移が見えづらいため、KPIを見直す必要がある。 ③地域モビリティ推進事業に関して、新たな公共交通サービスに向けた検討等は昨年度も説明があり、取組みに進捗が見られないように感じる。		◆重点事業①について、引き続き、避難体制の強化や個別避難計画の作成を促進するとともに、学校避難所や福祉避難所の受入体制の整備及び運営能力の向上を図る。また、防災訓練の参加率が低い若い世代に対する参加型防災教育の実施や子育て世代に向けた防災情報の発信及び啓発を行う。 ◆重点事業②については、引き続き、健康づくりや介護予防の推進に向けて取り組んでいる団体を支援する。また、町内の総合病院に対して産科の開始に向けた調整を行い、町民が安心して医療が受けられるような環境を整備する。 ◆重点事業③について、令和5年度に策定した「地域公共交通計画」に基づき、新たな公共交通の導入に向けて検討を進める。												

(※6)防災・行政ナビ…町からお知らせ、防災や災害に関する情報、生活に役立つ情報が通知されるスマートフォン専用の無料情報ポータルアプリ。

(※7)地域モビリティ…バスやタクシーといった公共交通など、地域における様々な移動手段。

(※8)交通結節点…鉄道駅、バスターミナル、駅前広場など交通手段が相互に接続し、交通動線が集中的に結節する箇所。

(※9)平均自立期間…大磯町での要介護認定2以上になるまでの期間の平均を指し、第五次総合計画前期基本計画重点プロジェクト3の(②健康長寿推進事業)のKPIに位置づけられている「健康寿命」を指す。